僕は森林が好きだ。奈良の春日大社からある所に抜けると僕の癒しの森林がある。そこには小さな川があり、その周りに複雑に曲がった樹木やきりっとそびえ立つ樹木がちょうど良く混ざり、とても美しい。でも、その森は神社の森なのでそのように管理されているだけなのだ。

僕たちの住む町の以前の名前は「青山町」と呼ばれていた。由来は青い山が周りにあるからだとあたりを見わたして思う。周りの山のイメージカラーは青だ。僕たちの町の山をスケッチすれば、とてもシンプルで簡単そうだ。しかし、森林とは青いだけで良いのだろうか。

　周りの森林を見てみると、針葉樹がよく植えられている。僕はある時までそれが普通だと感じていたが、違った。「愛農農業」という授業の中で講師が「森林は多様性だけでなく、多層性も大切だ。」と言われた。

多層性とは、背の高い木と背の低い木を混ぜて植えることにより「豊かな森林」になるということなのだ。「豊かな森林」とは土が肥沃になっており森林の中に無数の生命体が存在していることだ。その「豊かな森林」にするためには針葉樹だけでなく広葉樹もなければならないのだが、僕たちの町には針葉樹が山のほとんどの面積も独占している。なぜなのか、この土地は針葉樹しか植えられてない土地なのか。近所の神社の森には広葉樹のクスノキがいきいきと成長しているのに。

ある日、オーガニックマーケットで木こりの方にお会いした。その人から森の管理の現状を知った。日本の森は人工林と天然林があり僕の癒しの森は天然林だった。若い労働者が減少しご高齢の方が森を管理するが、年齢の影響でやめられれる方が多いという。僕は学校へ帰り図書館で林業の本を探し「ドイツの林業と日本の森林」を見つけた。そこには僕の求めていた事が書かれており少し頭のモヤモヤが消えた。

　本を読み、なぜそんな現象が起きたか少しわかった。戦前まで遡ると、日本の森林は広葉樹、針葉樹が混ざる豊かな森林がたくさんあったという。広葉樹の木の実が野生動物の食糧となるおかげで野生動物が住みつき、そこに糞もして植物の肥料となる。森林の多層性は生物の多様性につながるのである。

　戦後日本は高度経済成長が起こる。高度経済成長の影響で、木材の価格は上昇し、ピークには１㎥あたり4万円、ヒノキ1本で7万円になった。そこで政府は「拡大造林政策」と提示し実施した。

　その結果、日本の６９％の森林をヒノキ、杉のような建設資材を植えていった。これにより広葉樹が伐採された跡地に針葉樹を植えてしまったことにより、餌となっていた草や木の実を失ってしまった。野生動物たちは山から下りて大変な獣害をもたらしている。多様な生態系は崩れ数々の生命体のおかげで循環していた森林は消えてしまった。さらに、より安価な外国産林を求めて木材による輸入を自由化にした。そのために安価な外材が市場にあふれていることにより国産材木を圧倒した。それにより1㎥あたりの杉の価格が１９８０年から低迷して値段が1万3千台。ヒノキ1本あたり2万円台まで下落した。林業は安価できつい労働ということで林業の労働者が減少し衰退していく。林業が衰退すると、山を管理する人が減少し、山の持ち主は山を手放し、山の管理が行き届かなくなり山が荒れてしまうという悪循環が起きてしまった。日本に豊かな森林があまりないのは、「拡大造林政策」による樹木の多様性のバランスがおかしくなってしまったことと、「外材の輸入の自由化」により国産の材木が売れなくなり不安定な山を無責任に放置せざるえなくなったことと、森林に対して無関心になってしまったことが原因として考えられている。

僕が言っているのは人工林を天然林に変換しないといけないと提示しているわけではない。もし環境重視の人工林にすると経済面の負担が大きくなり山を手放してしまう人が続出すると思う。だから、経済面と環境面を両立した経済的な近自然型の森林を設計する必要がある。僕のような高校生にできることは何か。ここで「大人のような提案をすれば格好良いのだが、そんなことは僕にはできない。僕が考えたのは、「自分と山との関わり」を知ることだ。例えば漁業。魚の食糧となるプランクトンや海藻に必要な栄養は河川から流れ込んでいるのだ。この河川の源流がある場所は山だ。山が漁業に影響をもたらしているのだ。森林を身近な関係にあることを知ることは難しくない。難しいのはそこから先、どうしていけば良いのかと考えることだ。僕はたくさんの林業関係者と会話して自分が間違っている箇所を見つけ、より正確な情報をアウトプットしていきたい。

東京都になる明治神宮も森林が存在する。その森林はとても神秘的だが、この森林は戦後何もなかったころに人がゼロから作った森林なのだ。現代に「豊かな森林」を取り戻すなら、戦後よりも林業の技術が進み昔よりも「豊かな森林」をつくるのは簡単になっている。もし大勢の人が森林との関わりを知り、実行に移していくならば、何十色もの絵具をふんだんに使って描いた山の絵が現れるだろう